子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第118回　『家庭は『安全な基地』になっていますか』

こころの相談員　小林　節子

少し専門的なことを述べます。イギリスの精神科医・ボウルビイが、母（主な養育者）と子の絆の重要性を「愛着理論」として確立しました。その後アメリカの発達心理学者・エインワースは、愛着の絆が形成され、その子の安心感、安全感を保障するものを『安全基地』という言葉で表現しました。愛着形成というのは、乳児が自分の発信行動（泣く、微笑むなど）に対して、タイミングよく適切に反応してくれる養育者に対してアタッチメント（愛着性）を形成することを意味します。そして乳幼児はこのアタッチメントを活用して、自身に降りかかるさまざまな事態から起こる不安を低減させます。（不安や緊張する状況で、母親に抱きついたり甘えたりすること）

子どもがこの『安全基地』を持っているかどうかは、幼児期だけではなく、将来的にストレスや逆境に対する耐性度、人とのかかわり方、社会への適応の仕方に大きな影響をもたらすと考えられています。

愛着理論としての『安全基地』でなくても、家庭が子どもにとってどこよりも安心でき、くつろぐことが出来、《自分が守られている》ことを実感出来る子どもの居場所であることが大切なのはいうまでもないでしょう。

※小林相談員は、あさひ園・カンガルーあさひなどで相談活動を行っています。

8月活動報告

8/24（月）プチボラ事業
学童ランチパーティー

具だくさんピザは自分たちで盛り付けました。
とってもおいしかったね！

ご協力いただきましたボランティアの皆様、本当にありがとうございました！